

みつくら

令和 6年 3月15日 第406号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

エコーくずまる解散

コーラスグループの「エコーくずまる」が、昨年の秋に行われた文化祭の舞台を最後に解散となった。平成17年1月に発足し、玉山朱美さんの指導で大瀬川音頭や大瀬川讃歌の制定発表会そして賢治葛丸祭、町芸術祭など多くに出演し、平成26年から白藤淳一さんが指導にあたっていた。

あじさいの会が「いきいき講座」

あじさいの会（板垣福子会長、会員25名）では、1月29日に「いきいき講座」を開催し、管理栄養士の小田島あかりさんと理学療法士の佐藤昭子さんを招いて12人が受講した。この講座は、毎週火曜日に開いている「元気でまっせ体操」に合わせたもの。毎週なんとなくやっている「元気でまっせ体操」だったが、解説を聞きながら身体を動かすと、それぞれの体操には深い意味があることがわかった。

講座では、普段の生活では使われていない筋肉の運動を中心に「床でのストレッチ体操」や、腰痛予防や改善に役立つ「トレーニング法」、壁に寄り添っての「ねじり運動」など初めて体験した運動も多かった。

9区老人クラブが世代間交流会を開催

大瀬川第一老人クラブ（熊谷政男会長）では、近年途絶えていた世代間交流会の「お楽しみ会」を1月20日に9区自治公民館で17名が参加して行われた。最初は輪投げで準備運動後、ダーツをしたり、子供達はオセロゲームやトランプで遊び、お年寄り「ポッチャ」で楽しんだ。

祈年祭と厄年祈禱そして、どんと祭が行われる

山祇神社では、2月11日に役員と氏子総代の20名が参加し、直町宮司のもとに祈念祭（春祈禱祭）が行われた。前年まで、その後はどんと祭に移るのだが、今年からは厄年祈禱も行われ、直町宮司の祝詞で男性の本厄の菅原雅幸さん・菅原純幸さんと女性の本厄の及川瑞紀さんを含めた26名分の氏名を読み上げて祈禱した。御札とお守りは、役員を通じ

て配られることになっている。

厄年祈禱後は境内に場を移し、直町宮司の祝詞のもとに氏子から寄せられた御札や正月飾りを焼くどんと祭も行われた。

「50回目は測定できず」のたろし滝

2月11日に約60名の参加でたろし滝測定会が行われた。今年は残念ながら「測定出来ず（市長代理八重樫副市長宣言）」となった。板垣和郎さんの司会で開かれた測定会は、御神楽奉納後に菅原洋二副会長の開会、熊谷幸夫会長は挨拶のあとに「能登ゆれてたろし涙の50回」と川柳を詠んだ。また、達増知事の川柳「幸運い集う笑顔にたろし栄え」も熊谷会長が代読した。来賓挨拶で上田花巻市長（八重樫副市長代理）は「能登地震で亡くなられた方々にご冥福をお祈りいたします。また、被災された方々にお見舞いを申し上げると共に、一日でも早く復興できるよう願っております。市としても、これまで2回にわたって食料を届けたほか、来週には職員の派遣と、被災者の受け入れを行います。今回の測定は50回目、これまで続けられてこられた方々に敬意を表します」とお見舞いと祝辞を述べ、花巻市長の川柳「出来秋を雫見上げて期待する」を代読した。

また、佐々木県議からは「50回目の測定会、まことにおめでとうございます。平成11年から25回測定会に来ていますが、今冬の暖冬は並の暖冬とは違うように思っています。こうした中、測定を続けておられる皆さんに敬意を払っています」との祝辞の後、「警告か姿を消した太柱」と川柳が詠まれた。

この冬は除雪の必要が殆ど無く生活するには楽であったが、平成5年の作況指数30の凶作が思い出される。ほかにも、県南振興局長（代理）が「わたしには見えるたろしと豊作が」と詠んだ。その後、今年から会の顧問に就かれた東京都立大学都市環境科学研究科地理環境学域教授の松山洋氏から「今年の暖冬について」のスピーチを頂いた。その後、参加者全員にひつつみと甘酒が配られた。

大瀬川さんさ踊り保存会解散

令和6年2月20日付けで花巻市教育委員会に花巻市指定無形民俗文化財保持団体等の解散届書を提出し、大瀬川さんさ踊り保存会（会長 菅原三郎）が解散となった。

昭和61年6月27日に認定され52名の会員により活発に活動していた保存会であったが、現在は10名以下で活動が停滞気味であった。コロナ以降は停止状態となり、会員の高齢化に加え、地域の若者・子供の減少により新会員の参加も望めず解散となった。会員の皆さん長い間ご苦労様でした。

基盤整備事業説明会が行われる

基盤整備推進委員会（菅原教雄会長委員長）では、3月2日に大瀬川振興センターで基盤整備事業説明会を開催し、権利者（地権者と耕作者）が77名出席した。その前段階として、2月11日には基盤整備最終区画図面閲覧会を開催し、来場者に

3月2日の事業説明会資料と仮同意書用紙を配布した。

説明会当日はあいにくの吹雪の中ではあったが、用意したテーブルが埋まるほどの参加となった。

冒頭に菅原委員長から「この基盤整備事業は平成29年2月に立ち上げ色々なステップを踏みながら7年が経過し、最終区画図面確認まで到達した。近年は農業も高齢化や人手不足などで衰退傾向となる中、この基盤整備事業を行う事で省力化・効率化が望まれ、地域の活性化となると思う。今後も地権者と耕作者のご協力をお願いしたい」と挨拶があった。説明会では、岩手県盛岡農村整備室と山王海土地改良区から、「ほ場整備事業スケジュール・事業費償還計画・仮同意徴収」などの7項目の説明があった。質疑応答のあと、参加者から仮同意書を提出頂いて解散となった。まだ提出されていない方々へは、各推進委員の協力で100%回収を予定している。

また、今後は、令和6年度内に計画審査・事業採択申請・本同意書提出、そして法手続、事業採択と進み、令和7年度からの事業実施を予定している。

たんぼの会「お雛まつり」を開催

去る3月3日にたんぼの会（熊谷幸子会長）では、16名が参加して「お雛まつり」を開催した。前段に、花巻市生活改善協議会員の高橋サト子さんと菅原文子さんから、生活習慣・低栄養予防の食事の大切さと簡単調理の紹介があった。続いて、菅原千恵子さんの語りで紙芝居5話が披露され、その軽妙な語り思わず引き込まれた。その後「ひなまつり」を全員が笑顔で合唱し、久しぶりの集いに会話も弾んだ。最後は「おひな寿司とおひな菓子」を手手に帰途についた。

編集室の窓

○調べもので古い手帳を読んでいたら、面白いのが書かれてあった。平成22年2月20日のNHKラジオ（仙台放送局）の深夜番組で、「アナウンサーが『今年のたろし滝は・・・』と悪びれも無く堂々と2回「たろし滝」と発音していた」と書いてあった。きっと、アナウンサーはたろし滝を見たことも、聞いたこともなかったであろう。アナウンサーのみならず、原稿を書いたスタッフもたろし滝を知らなかったのか、はたまた、単なる誤字をアナウンサーがそのまま読んでしまったのか定かではないが、思わず含み笑いをした。

○兔に角今年の冬は変である。2月末にこの辺は全く雪が降らずに田野畑村や普代村方面で春の大雪があり、一晩で60cmも降って停電や三陸道の通行止めがあった。ふと思い出しで「東方朔秘傳書（菅原清太郎写）」の令和6年（四十一の項）を原文のまま記載する。「きのえたつ年ハ正月日でり、二三月日でり、四月半日でり、五月水、六月日でり、七八九月雨降、十月弓矢あり、早稲よし中おく半よし畑もの半よし世の中下の三分なり」と記してあった。